

政治家・奥むめお～台所から、政治へ～

参議院議員として～奥さん、国会へ～

戦前、政治運動のむなしさを実感した奥むめおは、「既成政党頼むに足らず」と考え、政治運動とは一線を画した婦人運動を展開しました。しかし、昭和22(1947)年戦後初の参議院議員選挙の際に、周囲からの熱心な立候補の勧めもあり、また奥むめお自身も、「何一つ政治的でない生活はなくなった」と考えるに至り、立候補を決意します。そして、初当選後3期18年間、参議院議員を務めました。

暮らしと政治を結びつけること～生活省の提案～

参議院議員となった奥むめおは、「暮らしと政治を結びつけること」を信念とし、消費者代表を自負して議員活動を続けました。政治家としての奥むめおが行った仕事は、「生活省」の提案に代表されます。

昭和37(1962)年池田内閣において、奥は消費者のための行政実現のため生活省の設置を要望し、消費者行政を専門とする機関を作るように訴えました。



予算委員会にて(昭和37年)

消費者運動の政治過程～主婦の店選定運動～

奥むめおは、「政治と生活の直結」を主張するのみならず、個別具体的な課題に対して、女性たちの意見を聞き、まとめ、団結して異議申し立てを行う活動を行いました。たとえば「主婦の店」選定運動は、戦後の混乱期において、公定価格を徹底させるため、消費者としての女性側から公正な商売をする優良店を投票によって決める活動でした。実際、東京都内47万人の主婦が投票し、結果857軒の優良店を選定、物価安定に大きく貢献しました。